

おもな感染症一覧

感染症名	病原体	潜伏期間	感染期間	感染経路	症状	予防方法	登園のめやす
麻疹 (はしか)	麻疹ウイルス	8～12日 (7～18日)	発熱出現1～2日前から発熱出現後4日間	空気感染 飛沫感染 接触感染	カタル期：38以上の高熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やにみられる。熱が一時下がる頃、コプリック斑と呼ばれる小斑点が頬粘膜に出現する。感染力はこの時期が最も強い。 発熱期：一時下降した熱が再び高くなり、耳後部から発熱が現れて下方に広がる。発熱は赤みが強く、少し盛り上がっている。融合傾向があるが、健康皮膚面を残す。 回復期：解熱し、発熱は出現した順に色素沈着を残して消退する。 <合併症> 中耳炎、肺炎、熱性けいれん、脳炎	麻疹風しん混合ワクチン（定期接種/緊急接種）、麻疹弱毒生ワクチン。1歳になったらなるべく早く原則として麻疹風しん混合ワクチンを接種する。小学校就学前の1年間（5歳児クラス）に2回目の麻疹風しん混合ワクチン接種を行う。	解熱した後3日を経過するまで（病状により感染力が強いと認められたときは長期に及ぶこともある）
風しん (三日はしか)	風しんウイルス	16～18日 (通常14～23日)	発熱出現前7日から発熱出現後7日間まで（ただし解熱すると急速に感染力は低下する。）	飛沫感染 接触感染	発熱、発しん、リンパ節腫脹 発熱の程度は一般に軽い。発しんは淡紅色の斑状丘疹で、顔面から始まり、頭部、体幹、四肢へと拡がり、約3日で消える。リンパ節腫脹は有痛性で頸部、耳介後部、後頭部に出現する。 <合併症> 関節炎、まれに血小板減少性紫斑病、脳炎を合併する。	麻疹風しん混合ワクチン（定期接種）、風しん弱毒生ワクチン。 1歳になったらなるべく早く原則として、麻疹風しん混合ワクチンを接種する。小学校就学前の1年間（5歳児クラス）に2回目の麻疹風しん混合ワクチンの接種を行う。	発しんが消失するまで
水痘 (みずぼうそう)	水痘・帯状疱疹ウイルス	14～16日 (10～21日)	発しんが出現する1～2日前からすべての発しんが痂皮化するまで	空気感染 飛沫感染 接触感染	発しんは体幹から全身に、頭髪部や口腔内にも出現する。紅斑から丘疹、水疱、痂皮の順に変化する。種々の段階の発しんが同時に混在する。発しんはかゆみが強い。 <合併症> 皮膚の細菌感染症、肺炎	水痘弱毒生ワクチン（任意接種） 緊急接種	すべての発しんが痂皮化するまで
流行性耳下腺炎 (ムンプス、おたふくかぜ)	ムンプスウイルス	16～18日 (12～25日)	ウイルスは耳下腺腫脹前7日から腫脹後9日まで唾液から排出耳下腺の腫脹前3日から腫脹出現後4日間は感染力が強い。	飛沫感染 接触感染	発熱、片側ないし両側の唾液腺の痛性腫脹（耳下腺が最も多いが顎下腺もある） 耳下腺腫脹は一般に発症3日目頃が最大となり6～10日で消える。 乳児や年少児では感染しても症状が現れないことがある。	おたふくかぜ弱毒生ワクチン（任意接種）	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A/H1N1亜型 AH3N2亜型 B型	1～4日 平均2日	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	飛沫感染 接触感染	突然の高熱が出現し、3～4日間続く。全身症状（全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛）を伴う。 呼吸器症状（咽頭痛、鼻汁、咳嗽がいそ）約1週間の経過で軽快する。 <合併症> 肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症	インフルエンザワクチン（任意接種） シーズン毎に毎年接種する。 6か月以上13歳未満は2回接種 ワクチンによる抗体上昇は、接種後2週間から5か月まで持続する。 ワクチンを接種したからといってインフルエンザに罹患しないことはない。 乳幼児の場合は、成人と比較してワクチンの効果は低い。	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児にあっては、3日を経過するまで）
咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス3、4、7、11型	2～14日	咽頭から2週間、糞便から数週間排泄される。（急性期の最初の数日が最も感染性あり）	飛沫感染 接触感染 プールでの目の結膜からの感染もある	39 前後の発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛） 頭痛、食欲不振が3～7日続く。眼症状として結膜炎（結膜充血）、涙が多くなる、まぶしがる、眼脂	ワクチンなし	主な症状（発熱、咽頭発赤、眼の充血）が消失してから2日を経過するまで
百日咳	百日咳菌	7～10日 (5～12日)	感染力は感染初期（咳が出現してから2週間以内）が最も強い。抗菌薬を投与しないと約3週間細菌が続き、抗菌薬治療開始後7日で感染力はなくなる。	鼻咽喉頭や気道からの分泌物による 飛沫感染、接触感染	感冒様症状からはじまる。次第に咳が強くなり、1～2週で特有な咳発作になる（コンコンと咳き込んだ後にヒューという音を吹くような音を立て息を吸う）。 咳は夜間に悪化する。 合併症がない限り、発熱はない。 <合併症> 肺炎、脳症	DPTワクチン（定期接種） 生後3か月になったらDPTワクチンを開始する。 2012年11月1日以降は、DPT-不活化ポリオ（IPV）4種混合ワクチンが定期接種として使用開始。発症者の家族や濃厚接触者にはエリスロマイシンの予防投与をする場合もある	特有な咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌薬物質製剤による治療を終了するまで
結核	結核菌 (Mycobacterium tuberculosis)	2年以内 特に6ヶ月以内に多い。 初期結核後、数十年後に症状が出現することもある。	喀痰の塗抹検査が陽性の間	空気感染 飛沫感染 経口、接触、経胎盤感染もある 感染源は喀痰かくたんの塗抹とまっ検査で結核菌陽性の肺結核患者	初期結核 粟粒結核 二次性肺結核 結核性髄膜炎 乳幼児では、重症結核の粟粒結核、結核性髄膜炎になる可能性がある。粟粒結核 リンパ節などの病変が進行して菌が血液を介して散布されると、感染は全身に及び、肺では粟粒様の多数の小病変が生じる。症状は発熱、咳、呼吸困難、チアノーゼなど。結核性髄膜炎 結核菌が血行性に脳・脊髄を覆う髄膜に到達して発病する最重症型。高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、痙攣、死亡例もある。後遺症の恐れもある。	BCGワクチン	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで（異なる日別の塗抹検査の結果が連続して3回陰性となるまで）
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌（ベロ毒素を産生する大腸菌）O157、O26等	3～4日 (1～8日)	便中に菌が排泄されている間	経口感染 接触感染 生肉（特に牛肉）、水、生牛乳、野菜等を介して経口感染する。 患者や保菌者の便からの二次感染もある。	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。発熱は軽度 <合併症> 溶血性尿毒症候群、脳症（3歳以下での発症が多い。）	食品の十分な加熱、手洗いの徹底	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間あけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されたもの
流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス8、19、37型	2～14日	発症後2週間	接触感染 飛沫感染 (涙液や眼脂で汚染された指やタオルから感染することが多い)	涙液、結膜充血、眼脂、耳前リンパ節の腫脹と圧痛を認める。 角膜に傷が残ると、後遺症として視力障害を残す可能性がある。	ワクチンはない	医師において感染の恐れがないと認められるまで（結膜炎の症状が消失してから）
急性出血性結膜炎	エンテロウイルス	1～3日	ウイルス排出は呼吸器から1～2週間、便からは数週間から数ヶ月	飛沫感染 接触感染 経口（糞口）感染	急性結膜炎で結膜出血が特徴	眼脂、分泌物にふれない。	医師において感染の恐れがないと認められるまで
帯状疱疹	神経節に潜伏していた水痘・帯状疱疹ウイルスの再活性化による。	不定	すべての発しんが痂皮化するまで	接触感染 水疱が形成されている間は感染力が強い	小水疱が神経の支配領域にそった形で片側に現れる。正中を超えない。 神経痛、刺激感を訴える、小児では痒を訴える場合が多い。 小児期に帯状疱疹になった子は、胎児期や1歳未満の低年齢での水痘罹患例が多い。	細胞性免疫を高める作用有り（水痘ワクチン） 帯状疱疹の予防は効果作用に含まれていないため臨床試験中	すべての発しんが痂皮化するまで
潰瘍菌感染症	A群溶血性レンサ球菌	2～5日 膿瘍（とびひ）では7～10日	抗菌薬内服後24時間が経過するまで	飛沫感染 接触感染	上気道感染では突然の発熱、咽頭痛を発生ししばしば嘔吐を伴う。 ときに掻痒そうような感ある粟粒そりりゅう大の発しんが出現する。 感染後数週間してリウマチ熱や急性糸球体腎炎を合併することがある。	発病していないヒトに予防的に抗菌薬を内服させることは推奨されない。	抗菌薬内服後24～48時間経過していること ただし、治療の継続は必要

おもな感染症一覧

感染症名	病原体	潜伏期間	感染期間	感染経路	症状	予防方法	登園のめやす
感染性胃腸炎 (ロタウイルス感染症・ノロウイルス感染症)	ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス等	ロタウイルスは1-3日 ノロウイルスは12-48時間後	症状の有る時期が主なウイルス排泄期間	経口(糞口)感染、 接触感染 食品媒介感染 吐物の感染力は高く、乾燥しエアロゾル化した吐物から空気感染もある	嘔吐・嘔吐、下痢(乳幼児は、黄色より白色調であることが多い)発熱、合併症として、脱水、けいれん、脳症、肝炎、	ロタウイルスに対してはワクチンがある。	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事ができること
RSウイルス感染症	RSウイルス	4-6日 (2-8日)	通常3-8日間 (乳児では3-4週)	飛沫感染 接触感染 環境表面でかなり長い時間生存できる。	発熱、鼻汁、咳嗽がいそう、喘鳴、呼吸困難 <合併症>乳児早期では細気管支炎、肺炎入院が必要となる場合が多い。 生涯にわたって感染と発病を繰り返す感染症であるが、特に乳児期の初感染では呼吸状態の悪化によって重症化することが少なくない。	ハイリスク児にはRSウイルスに対するモノクローナル抗体(バリシマブ)を流行期に定期的に注射し、発症予防とあるいは軽症化を図る。	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと
A型肝炎	A型肝炎ウイルス	15-50日 (平均28日)	発症1-2週間前が最も排泄量が多い。	糞口感染(家族・室内)食品媒介感染(生の貝類等)	急激な発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐ではじまる。数日後に解熱するが、3-4日後に黄疸が出現する。完全に治癒するまでには1-2ヶ月を要することが多い	A型肝炎ワクチン(16歳以上)濃厚接触者には免疫グロブリンやワクチンを予防的に投与	肝機能が正常であること
マイコプラズマ肺炎	肺炎マイコプラズマ	2-3週間(1-4週間)	臨床症状発現時がピークで、その後4-6週間続く。	飛沫感染 症状がある間がピークだが保菌は数週間から数ヶ月持続する	咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。しつこい咳が3-4週間持続する場合もある。 中耳炎、鼓膜炎、発疹を伴うこともあり重症例では呼吸困難になることもある。	ワクチンはない	発熱や激しい咳が治まっていること(症状が改善し全身状態が良い)
手足口病	エンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスA16、A6、A10型等	3-6日	唾液へのウイルスの排泄は通常1週間未満 糞便への排泄は発症から数週間持続する。	飛沫感染 糞口感染(経口) 接触感染	水疱性の発しんが口唇粘膜及び四肢末端(手掌、足底、足背)に現れる。水疱は痂皮形成せずに治癒する場合が多い。発熱は軽度である。 口内炎がひどくて、食事がとれないことがある。	ワクチンはない	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、 普段の食事ができること 流行の阻止を狙っての登園停止はウイルスの排出期間も長く、現実的ではない。
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群	3-6日	唾液へのウイルスの排泄は通常1週間未満 糞便への排泄は発症から数週間持続する。	飛沫感染接触感染糞口感染(経口)	突然の高熱(1-3日続く)、咽頭痛、口蓋垂付近に水疱疹や潰瘍形成 咽頭痛がひどく食事、飲水ができないことがある。 <合併症>熱性痙攣、脱水症	ワクチンはない	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、 普段の食事ができること
伝染性紅斑 (リンゴ病)	ヒトパルボウイルスB19	4-14日 (~21日)	かぜ症状発現から顔に発しんが出現するまで	飛沫感染	軽いかぜ症状を示した後、頬が赤くなり手足に網目状の紅斑が出現する。発しんが治っても、直射日光にあたりたり、入浴すると発しんが再発することがある。稀に妊婦の罹患により流産や胎児水腫が起こることがある。 <合併症>関節炎、溶血性貧血、紫斑しん病	ワクチンはない	発しんが出現した頃にはすでに感染力は消失しているため、全身状態が良いこと
単純ヘルペス感染症	単純ヘルペスウイルス	2日~2週間	水疱を形成している間	接触感染(水疱内にあるウイルス)	歯肉口内炎、口周囲の水疱 歯肉が腫れ、出血しやすく、口内痛も強い。治癒後は潜伏感染し、体調が悪い時にウイルスの再活性化が起こり、口角、口唇の皮膚粘膜移行部に水疱を形成する(口唇ヘルペス)。	ワクチンはない	発熱がなく、よだれが止まり、 普段の食事ができること (歯肉口内炎のみであればマスク着用で登園可能)
突発性発しん	ヒトヘルペスウイルス6及び7型	約10日	感染力は弱い、発熱中は感染力がある。	飛沫感染経口感染接触感染	38以上の高熱(生まれて初めての高熱である場合が多い)が3-4日間続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発しんが出現する。軟便になることがある。咳や鼻汁は少なく、発熱のわりに機嫌がよく、哺乳もできることが多い。 <合併症>熱性けいれん、脳炎、肝炎、血小板減少性紫斑病等	驚異的な予防方法は確立されていない ワクチンはない	発熱後1日以上経過し、 全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	黄色ブドウ球菌、A群溶血性レンサ球菌	2-10日 長期の場合もある	効果的治療開始後24時間まで	接触感染	痒疹や虫刺され痕を掻爬した部に細菌感染を起こし、びらんや水疱病変を形成する。痒疹感を伴い、病巣は擦過部に広がる。 アトピー性皮膚炎が有る場合には重症になることがある。	皮膚の清潔保持	皮疹が乾燥しているか、 湿潤部位が被覆できる程度のものであること
アタマジラミ	アタマジラミ	10-14日 成虫まで2週間	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間は10日から14日である。	接触感染(頭髪から頭髪への直接接触衣服や帽子、櫛、寝具を介する感染)	小児では多くが無症状であるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	シャンプーを使い毎日洗髪する。 タオル、くし、帽子などの共用を避け、衣類、シーツ、枕カバー、等を熱湯(55、10分間で死滅)で洗う、又は熱処理 アイロン、クリーニング	駆除を開始していること
伝染性軟腫 (ミズイボ)	伝染性軟腫ウイルス(イボの白い内容物中にウイルスがいる。)	2-7週間 時に6ヶ月まで	不明	接触感染皮膚の接触やタオル等を介して感染。	直径1-3mmの半球状丘疹で、表面は平滑で中心部高を有する。 四肢、体幹等に数個-数十個が集簇してみられることが多い。 自然治癒もあるが、数ヶ月かかる場合がある。自然消失を待つ間に他へ伝播することが多い。アトピー性皮膚炎等、皮膚に病変があると感染しやすい	直接接触を避ける。 ワクチンはない	掻きこわし傷から滲出液が出ているときは被覆すること
B型肝炎	B型肝炎ウイルス(HBV)	急性感染では45-160日 (平均90日)	HBs抗原、HBe抗原陽性の期間を含めB型肝炎ウイルスが検出される期間	母子など垂直感染 父子や集団生活での水平感染 歯ブラシ等の共用による水平感染 性行為感染 最近、成人になっても慢性化率の高い遺伝子型AのB型肝炎ウイルスが海外から入ってきて国内で広がっている。	乳幼児期の感染は無症候性に経過することが多いが、持続感染に移行しやすい。 急性肝炎の場合 全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸など。 慢性肝炎では、自覚症状は少ない	B型肝炎ワクチン 平成24年11月現在、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会では、任意接種のワクチンのうち、7つのワクチンは広く接種することが望ましいと提言を出しているが、B型肝炎ワクチンもこの7つの中に入っている。 世界保健機構(WHO)ではすべての子どもにワクチン接種を推奨している。	急性肝炎の場合、 症状が消失し、 全身状態が良いこと。 キャリア、慢性肝炎の場合は、 登園に制限はない。

症状にあわせた対応

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> * 発熱期間と同日の回復期間が必要 ・ 朝から37.5 を超えた熱とともに 元気がなく機嫌が悪い 食欲がなく朝食・水分が摂れていない ・ 24時間以内に解熱剤を使用している ・ 24時間以内に38 以上の熱が出ていた * 1歳以下の乳児の場合（上記にプラスして） ・ 平熱より1 以上高いとき（38 以上あるとき） 	<ul style="list-style-type: none"> * 前日38 を超える熱がでていない ・ 熱が37.5 以下で元気があり機嫌がよい 顔色がよい ・ 食事や水分が摂れている ・ 発熱を伴う発しんが出ていない ・ 排尿の回数が減っていない ・ 咳や鼻水を認めるが増悪していない ・ 24時間以内に解熱剤を使っていない ・ 24時間以内に38 以上の熱はでていない 	<ul style="list-style-type: none"> * 38 以上の発熱がある ・ 元気がなく機嫌が悪い ・ 咳で眠れず目覚める ・ 排尿回数がいつもより減っている ・ 食欲なく水分がとれない <p>熱性痙攣の既往児は医師の指示に従う</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 38 以上の発熱の有無に関わらず ・ 顔色が悪く苦しそうなとき ・ 小鼻がピクピクして呼吸が速いとき ・ 意識がはっきりしないとき ・ 頻繁な嘔吐や下痢があるとき ・ 不機嫌でぐったりしているとき ・ けいれんが5分以上治まらないとき ・ 3か月未満児で38 以上の発熱があるとき

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 24時間以内に2回以上の水様便がある ・ 食事や水分を摂ると下痢がある（1日に4回以上の下痢） ・ 下痢に伴い、体温がいつもより高めである ・ 朝、排尿がない ・ 機嫌が悪く、元気がない ・ 顔色が悪くぐったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染のおそれがないと診断されたとき ・ 24時間以内に2回以上の水様便がない ・ 食事、水分を摂っても下痢がない ・ 発熱が伴わない ・ 排尿がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事や水分を摂ると刺激で下痢をする ・ 腹痛を伴う下痢がある ・ 水様便が2回以上みられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気がなく、ぐったりしているとき ・ 下痢の他に機嫌が悪く食欲がなく発熱や嘔吐、腹痛を伴うとき ・ 脱水症状と思われるとき 下痢と一緒に嘔吐 水分が取れない 唇や舌が乾いている 尿が半日以上出ない（量が少なく、色が濃い） ・ 米のとぎ汁のような水様便が数回 ・ 血液や粘液、黒っぽい便のとき

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 24時間以内に2回以上の嘔吐がある ・ 嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである ・ 食欲がなく、水分もほしがらない ・ 機嫌が悪く、元気がない ・ 顔色が悪くぐったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染のおそれがないと診断されたとき ・ 24時間以内に2回以上の嘔吐がない ・ 発熱がみられない ・ 水分摂取ができ食欲がある ・ 機嫌がよく元気である ・ 顔色が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 咳を伴わない嘔吐がある ・ 元気がなく機嫌、顔色が悪い ・ 2回以上の嘔吐があり、水を飲んでも吐く ・ 吐き気がとまらない ・ お腹を痛がる ・ 下痢を伴う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嘔吐の回数が多く顔色が悪いとき ・ 元気がなく、ぐったりしているとき ・ 水分が摂取できない時 ・ 血液やコーヒーのかすの様な物を吐いた時 ・ 頻回の下痢や血液の混じった便が出たとき ・ 発熱、腹痛の症状があるとき ・ 脱水症状と思われるとき 尿が半日以上出ない 落ちくぼんで見える目 唇や舌が乾いている 張りのない皮膚や陰囊

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> * 前日に発熱がなくても ・ 夜間しばしば咳のために起きる ・ 喘鳴や呼吸困難がある ・ 呼吸が速い ・ 37.5 以上の熱を伴っている ・ 元気がなく機嫌が悪い ・ 食欲がなく朝食・水分が摂れない ・ 少し動いただけで咳がでる 	<ul style="list-style-type: none"> * 前日38 を超える熱はでていない ・ 喘鳴や呼吸困難がない ・ 続く咳がない ・ 呼吸が速くない ・ 37.5 以上の熱を伴っていない ・ 機嫌がよく、元気がある ・ 朝食や水分が摂れている 	<ul style="list-style-type: none"> * 38 以上の発熱がある ・ 咳があり眠れない ・ ゼイゼイ、ヒューヒュー音があり眠れない ・ 少し動いただけでも咳がでる ・ 咳とともに嘔吐が数回ある 	<p>以下の場合、緊急受診が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゼイゼイ、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき ・ 犬の遠吠えのような咳がでる ・ 発熱を伴い（朝は無し）息づかいが荒くなったとき ・ 顔色が悪く、ぐったりしているとき ・ 水分が摂取できないとき <p>* 元気だった子どもが突然咳きこみ、呼吸が苦しようになったとき</p>

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保育中に症状の変化がある時には保護者に連絡し、受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発熱とともに発しんのあるとき ・ 今までになかった発しんが出て、感染症が疑われ、医師より登園を控えるよう指示されたとき ・ 口内炎のため食事や水分が取れないとき ・ とびひ 顔等で患部を覆えないとき 滲出液が多く他児への感染のおそれがあるとき かゆみが強く手で患部を掻いてしまうとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受診の結果、感染のおそれがないと診断されたとき 	<ul style="list-style-type: none"> * 発しんが時間と共に増えたとき ・ 発熱してから数日後に熱がやや下がるが、24時間以内に再び発熱し赤い発しんが全身に出てきた。熱は1週間くらい続く（麻疹） ・ 微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱が出る。膝やおしりに出ることもある（手足口病） ・ 38 以上の熱が3～4日続き下がった後、全身に赤い発しんが出てきた（突発性発しん） ・ 発熱と同時に発しんが出てきた（風しん、溶連菌感染症） ・ 微熱と両頬にりんごのような紅斑が出てきた（伝染性紅斑） ・ 水疱状の発しんがある。発熱やかゆみは個人差がある（水痘） <p>食物アレルギーによるアナフィラキシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食物摂取後に発しんが出現し、その後消化器や呼吸器に症状が出現してきた場合は至急受診が必要